

# 新しくなった野口英世記念館を訪ねて

## 日本が生んだ感染症研究の偉人の足跡と展示館から学ぶ

結核予防会 結核研究所

所長 石川 信克

野口英世記念館は、結核予防会設立と同時期の1939年に開館されたが、本年リニューアルされた。新装に際し、館長の竹田美文先生（元国立感染症研究所長）のお招きもあり、浅羽俊子様のご参りで郡山を訪れた際に、結核アーカイヴづくりへの参考のため、本年6月17日、島尾顧問、竹下専務、羽生総合健診推進センター事務部長等とともに、記念館を訪問した。

同記念館は、まず(I)野口英世の生涯を年代を追って沢山の写真と資料で紹介している。1876年の誕生から生立ち、猪苗代・会津若松時代から始まり、アメリカ時代、特にロックフェラー研究所での研究業績、その後黄熱病の研究で中南米、アフリカでの活躍や、1928年に自ら黄熱病に感染して亡くなるまでの足跡が展示されている。しかし全体のコンセプトはそれに留まっていない。(II)見学者特に子供たち向けに、科学する心や感染症に関する体験的展示があり、遊びながら学ぶ工夫がされている。更に(III)母親シカの手紙から発展し、母から子に送る手紙の

コーナーやそのコンテスト、また(IV)隣接して、移設再現された生家があり、その内部、特に1歳半の時火傷をした囲炉裏や志を刻んだ柱などが見られる。その前の広場には、記念碑などがある。

今回の訪問では、野口英世の類い稀なる生涯や偉業の数々に触れることができたとともに、工夫を凝らした感染症に関する展示では、楽しみながら学ぶことができる趣向の数々に感心した。

見学を終えて、これから結核予防会が作りたいと思っている結核アーカイブスの内容や運営に関するアイデアも湧く。長崎大学の熱帯医学研究所なども入れて、感染症を中心とした展示がされている施設のネットワークができるのではないかと。竹田館長がされているように、小学校を回った出前の講義と宣伝など、様々な教育的活動は、忘れてはならない感染症や人類と病気との闘いの歴史を学んでもらうのに必要ではないかと思う。



(I) 左より筆者、(野口英世)、竹田館長、島尾顧問



(II) 子ども向けの体験的展示



(I) 歴史に残る偉業を紹介



(IV) 幼少時に火傷をした囲炉裏